

令和4年度 第6学年 授業改善推進プラン

		昭島市立拝島第二小学校	各教科等担当者記入欄（実施記録）
	指導の実態及び課題	具体的な授業改善策	
国語	○「目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わるように書くこと」を苦手とする児童が多い。 ・「話す・聞く」活動や「読む」活動を通して、自分の考えを論理的に伝えるための考えを形成する学習過程が定着していない。	国語科のみならず、学習活動全体でカリキュラム・マネジメントを行い、継続的に取り組むことで改善する。 ◎「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書く」ための学習過程の理解と定着を図るために以下の取組を進める。 ①集めた材料を整理して自分の考えを主張する文章構成を作る。 ②児童相互で伝え合い文章校正を検討する。➡簡単に書く部分や詳しく各部分を検討する。 ③説得力のある文章になるように、「考え、理由、根拠となる事例」を考えて詳しく書く。 ・国語科のみならず、各教科において拝二小授業カスタンダード20Ver. 4を活用し、基本的な授業規律や授業の流れ、学習の深まりを追求していくことで、教員の授業力向上を目指し、児童の学力向上を目指す。	
社会	○学習内容に興味・関心をもって取り組むが、自分の生活と関連があることとして捉えられていない児童が多い。 ○資料の見方や表す数値等についての理解が低く、正確に読み取ることができない。 ○資料から読み取ったことを社会的現象や他の資料と比較・関連付けて考えることができる児童が少ない。 ○政治に関する言葉やしぐみについて、内容を詳しく理解できていない。	・自分たちの生活と身近な教材や教具を準備し、社会的現象と自分の生活を関連付けて考えられるようにする。 ・基礎的な資料の読み取り方を確認し、調べたことや見付けた資料について、互いの考えについて対話し、共感したり指摘したりする場面を設定する。 ・資料から共通点や相違点を見だし、「なぜ同じなのか」や「なぜ違うのか」を考えて、社会的現象に対する多角的な見方・考え方を養い、意味認識や価値認識が深められるようにする。 ・歴史学習においては、前時までに学習したことが、本時にどのようにつながっているかを考えさせ、歴史の大きな流れをしっかりと捉えさせる。	
算数	○問題場面の数量の関係を的確にとらえて（解釈して）立式し、問題解決を図り、数学的に説明すること ○学習したことと、日常生活の関りについて深く理解していない。また、数量や式の意味を正確に捉えることができていない。	・「事象の変化と数量関係の把握」のために以下のような学習ステップを繰り返すことで定着させていく。 ・本校の授業改善のポイントを踏まえ、特に単位量当たりの大きさ、基準量・比較量、割合の意味理解ができるように具体的に指導する。（生活場面での活用を意識させる。）	
理科	○経験や既習事項を根拠に、自分の考えをもつことができる児童が増えつつあるが、生活経験やその経験と学習内容を結び付けることが難しい児童がいる。 ○実験・観察を興味・関心をもって取り組んでいるが、正確に記録したり、実験結果を根拠にした考察を記述できる児童が少ない。 ○授業中に学習内容を繰り返し確認することで、短期的には学習事項が定着しているように見えるが、中・長期的な定着や理解には至っていない。また、既習事項が日常生活で生かされないことが散見される。	・導入の際、経験や既習事項から考えられるようにするとともに、実験、観察の時間を十分に確保し、体験から考え学ぶことができるようにする。また、実験結果がどのようなものだと、仮説が正しかったと言えるのかを事前に確認することで、学習の見通しをもった上で実験に取り組めるようにし、学習のねらいに到達させるようにする。 ・観察する視点や比較の対象を明確に押さえさせ、参考になる観察カードを紹介する、班で考えを深め合う活動を行うなどの工夫をして、科学的な視点で記録・分析し、考察できるようにする。 ・既習事項を課題解決に生かせるような授業づくりを続けることによって、児童自らが、課題の解決に既習事項が生かせるとうとうことを実感に伴い学べるようにする。また、実験や観察から得た結果が、身近な日常のどのようなところに生かされたり、見られたりするのかが、学習の度に考えるようにし、科学的な視点を身に付け、理科学習に関心をもち続けられるようにする。	
音楽	○歌詞の一つ一つの言葉の意味を理解し、楽譜に書かれた演奏記号を生かし、曲想にあった表現ができるように指導しているが、曲想を意識するまでに至っていない児童がいる。 ○歌唱や合奏で個のパートの演奏はできるが、お互いのパートを聴き合いながら演奏することが難しい児童がいる。互いの響きを深く感じ、聴きながら演奏できる児童は少ない。	・歌詞の内容を理解し意図をもって歌唱できるようするため、演奏記号等を最大限に生かした歌い方のパターンを指導し習得させた上で、曲想を意識した工夫が加えられるように支援していく。 ・歌唱や合奏で児童が意図をもって表現できるように表現の幅を広げる指導を行う。お互いの音や響きを聴き合いながら演奏できるように、各パートの音を取りだしたり重ねたりを繰り返し、気付きや工夫ができるように支援していく。	
図画工作	○課題に対し、既習事項を生かした様々な方法を選択し、創造的につくったり表したりすることができるよう指導しているが、既習事項を十分に生かして使えなかったり、創造的に発想したり構想したりすることができない児童が1割程度いる。用途や機能を十分に考慮してつくることができない児童が若干名いる。 ○既習の電動糸のこぎりやのこぎりなどに関して、正しい使い方が身に付いているか不安がある。 ○絵の具の使い方に関しては、混ぜる水の量が不適切だったり、下の色が乾かないうちに塗り重ねたり上から描いたりして、汚くにじんでしまう児童が2割程度いる。	・導入時に、課題制作に使えそうな既習事項を提示し、作品への生かし方を考えたり、気付いた技や方法を全体で共有することで、創造的につくったり表したりできるようにする。また、用途や機能を十分に考慮できるよう、導入時に作品の実物を用いて全体で確認したり、板書で示したり、机間指導にて相談に乗ったりする。 ・授業の導入時に既習の道具についても、正しい道具の使い方を継続して指導し、安全面に十分に気を付ける。 ・導入時に掲示資料を使って絵の具の正しい使い方を復習する。更に机間指導を丁寧に行い、基礎・基本の定着を図る。	
家庭	○学校で学習したことを家庭で生かそうとする意欲が低い児童が多い。 ○ミシンや調理道具などの使い方を忘れてしまい、間違った使い方をする児童がいる。	・学習ノートを活用して、家庭で取り組めることを課題として設定する。また、記録したものを持ち寄り、よりよい家庭生活を送るために改善できる点について話し合う活動を行う。 ・児童が理解しやすいようにミシンや裁縫、調理など、教師が事前に手本を示す。また、机間指導による個別指導を行い、指導の徹底を図る。 ・調理実習の計画や留意点については授業の中で扱い、調理については保護者と連携し、家庭で取り組めるようにする。	
体育	○体力テストの結果のグラフを見て何が悪いのか把握し、改善策も自分自身で考えさせることで体力向上に向けての意識をもたせるようにする。体育の授業では、準備運動で体づくり運動を中心とした運動の中から主運動に関わるものを選び、実践していく。 ○休み時間や家庭でできる運動を取り入れることで、休み時間や家庭で体を動かす方法を指導する。 ○コロナ禍により、運動をする児童としない児童で今まで以上に二極化している。そのため、体力差が大きい。	・引き続き問題解決的な学習を続けるとともに、技能のポイントを絞って一つ一つ丁寧に指導する。また、主運動につながる補助運動を取り入れることで運動経験が少ない児童に多くの動きを体験させる。 ・授業で、休み時間や家庭で体を動かす方法を指導する。 ・反復横跳び・上体起こしとともに準備運動等に取り入れ、記録向上を目指す。 ・年2回の体力テストの実施と、その分析に基づいた授業を行うとともに、コーディネーショントレーニングを実施し、児童の運動能力の向上を図る。	
道徳	○道徳的価値について、自分の考えを表現することはできるが、他者の意見を受け入れて考えを広げることが難しい児童が多い。 ○大切であると理解している児童は多いが、実際の生活場面で行動に移すことができない児童が多い。	・道徳的価値の大切さを踏まえ、実際の行動に移せるかどうかを友達と交流するなどの対話的な活動を取り入れ、価値項目に対する深い理解を促す。また、振り返りの時間を必ず確保し、自分自身と向き合う時間を大切にす。 ・意見を発表するだけでなく、グループやペアで考えを伝え合う時間を確保することで、他者の様々な考えに触れさせる。 ・自分自身の立場からのみ考えるのではなく、友達の意見と比較して再考する活動等を取り入れ、多面的・多角的な立場から考えられるようにする。	
外国語	○外国語を使った表現活動に関して、積極的な児童と積極的ではない児童の二極化が見られる。 ○ゲームやクイズなどの活動を行う際、外国語で表現しながら行うという意識に欠け、活動のみを楽しむ様子が見られる。 ○中学校に向けて書く活動を多く取り入れているが、定着までは至っていない。 ○「聞く」「書く」活動に苦手意識がある児童が半数程度いる。	○外国語で表現する楽しさを実感させるために、チャンツ・動作化での表現・歌などを取り入れて授業を実践する。 ○A L T と協力して外国語の表現を楽しむゲームを多く取り入れるとともに、1対1で簡単な外国語の会話を楽しめる活動の場を増やす。 ○アルファベットや単語を書く活動やスライド作成をしてプレゼン発表をする活動を通して、表現の仕方を定着させる。	
総合的な学習の時間	○身近な問題解決に向けて、友達と協力して取り組んではいるが、継続して行うことができていない。 ○割合を算出するなど問題を深く分析したり、根拠のある意見を発表したりすることに苦手意識のある児童がいる。 ○わたしたちにできることを考える中で、協力する対象がクラスにとどまっているので、学年での関りについて再度指導する。	○身近にある問題について目を向け、自分たちの力で解決しようと計画、分析、調査する活動を通して、考えを深めたり広げたりできるようにする。 ○友達と課題解決に向けて話し合う中で、自分の意見と友達の意見を比較関連付けながら解決策を考えられるようにする。 ○分析、調査する際には教師と一緒に話し合いに参加することで、一つの課題に対してより深い思考ができるようにする。 ○地域の方々に協力していただき、様々な視点から物事を考え、自分のキャリアへとつなげていけるようにしていく。	
特別活動	○令和4年度全国学力・学習状況調査の質問紙では、「自分に良いところはありますか。」という質問に対して、全国・東京の平均よりも高い値を示している。自分の良さを児童一人一人に意識化させ、学級へと繋げていく。 ○学級カスタンダードを基にクラスの良いところを伸ばす話し合い、課題点を解決するための話し合いを行っている。少しずつ学級に貢献しようと行動することが出来るようになってきた児童もいる。	・学級カスタンダードを基に、具体的に自分たちがどのような行動をとっていけばよいのかを、アンケート実施時に話し合う。 ・話し合いを基に、すずんで行動に移している児童を取り上げ、学級全体に広めていく。 ・行事や学年間の取組を通して、学級のよさを学年全体に広めていく。 ・どの児童も学級や学校づくりに関われるように、係を割り振ったり、主体的に行動できる場を設けて、積極的に取り組めるようにする。	